

RESAS

を分析してみよう

福岡県
福岡市

RESAS(地域経済分析システム)は、地域経済に関する様々なデータ(産業の強み、人の流れ、人口動態など)をグラフで分かりやすく「見える化(可視化)」したシステムです。データに基づいた地域の実情を把握・分析できるので、ぜひ参考にしてみてください。

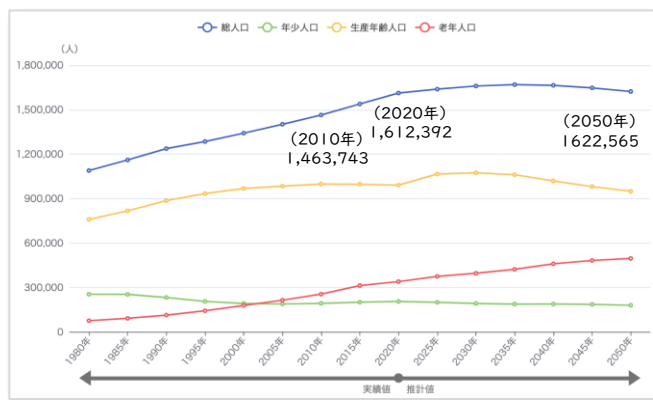
人口

<https://resas.go.jp>

RESAS



年齢別人口推移



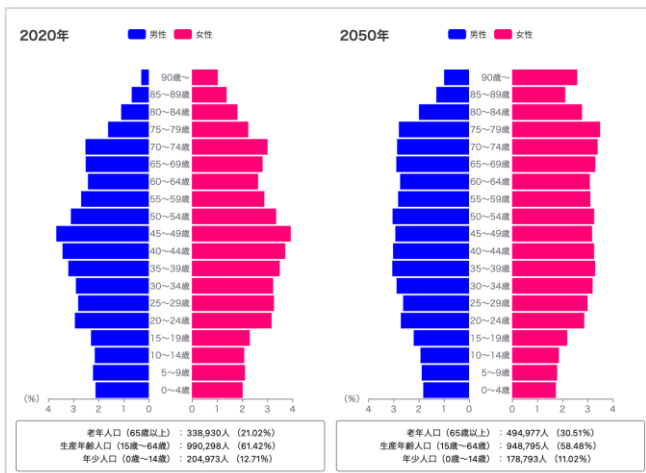
*人口マップ→人口構成→人口推移

2020年の総人口は1,612,392人。10年前(2010年)の1,463,743人と比較して増加しており、今後もやや増加傾向が続くが、2035より減少傾向になる見込みである。また、年齢別に将来の傾向をみると、年少人口は減少傾向、生産年齢人口は微増後に減少傾向、老年人口は増加傾向。老年人口割合が増加する傾向にあり、少子高齢化が一層進んでいく地域である。事業者は、少子高齢化の進行に対応したビジネスモデルの再構築が必要といえる。

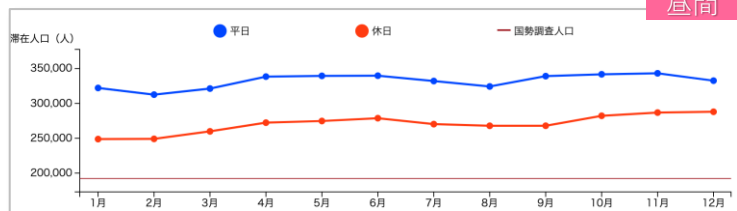
※年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15～64歳、老年人口は65歳以上をさす。

人口ピラミッド

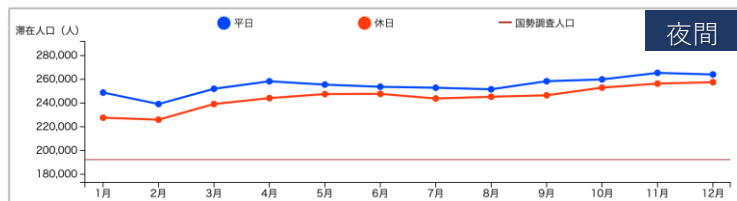
現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。2020年、2050年の人口ピラミッドは共に「つば型」である。老年人口の割合をみると、2020年の21.02%から2050年には30.51%まで増加する。一方、生産年齢人口は2020年の61.42%から58.48%まで減少する見込みである。



*人口マップ→人口構成→人口ピラミッド



昼間



夜間

*まちづくりマップ→滞在人口率

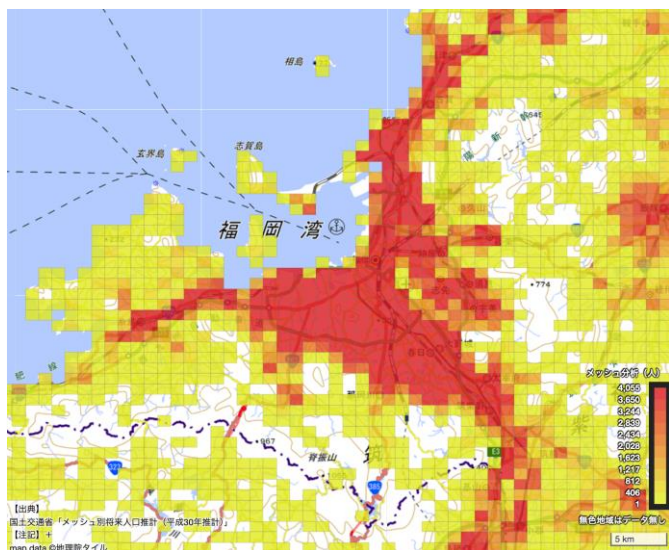
滞在人口

(2022年、上：昼間、下：夜間)

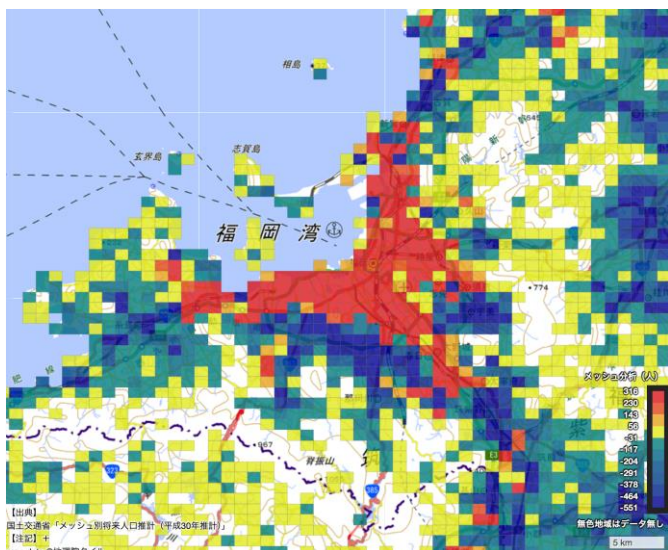
福岡市博多区の昼間人口と夜間人口を月ごとに比較したグラフである。

昼間人口をみると、平日・休日共に滞在人口が夜間を上回っていることから、他の市町村からの流入人口が流出口に対し多いことがわかる。

※昼間は14時、夜間は20時のデータ



*人口マップ→将来人口メッシュ→メッシュマップ



*人口マップ→将来人口メッシュ→メッシュマップ

人口メッシュ

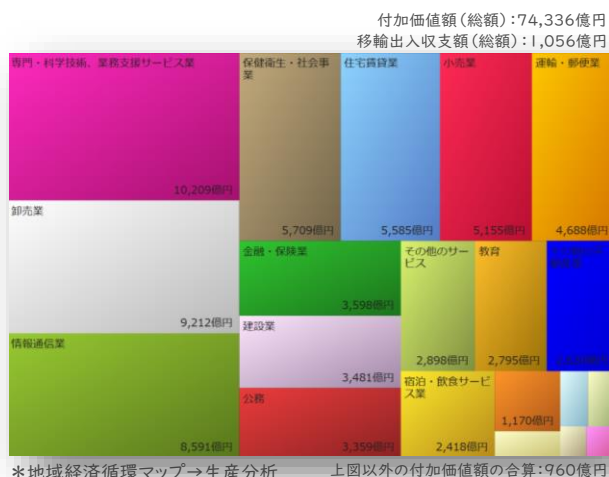
左の図は福岡市の人口メッシュを表示させた地図、右の図は2015年と2050年の人口増減率を表した地図である。
中央区や博多区、東区は人口の増加が予測されているものの、早良区や南区は減少を予測されているのエリアが多く見られる。

地域経済循環

稼ぐ力分析（2018年）

福岡市内の生産（付加価値額（総額））の内訳を面の大きさで示したグラフである。

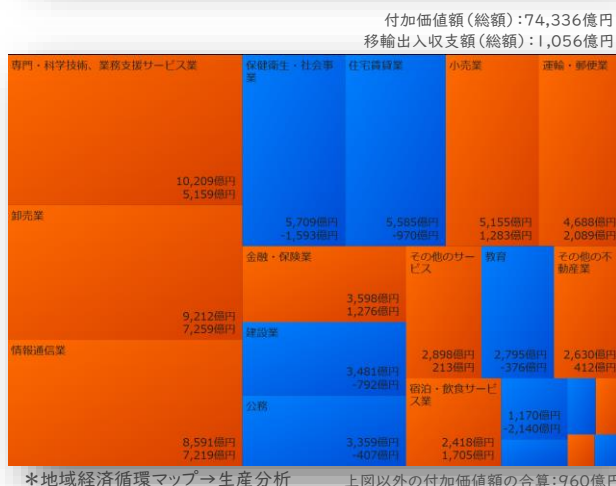
「専門・科学技術、業務支援サービス業」がもっとも付加価値額の高い産業であり、「卸売業」、「情報通信業」、「保健衛生・社会事業」が続く。



生産分析（2018年）

福岡市内の生産（付加価値額（総額））の内訳を面の大きさで示したグラフである。

グラフの色は、地域外から稼いでいる産業（赤色）と地域外から必要としているものを調達している産業（青色）を表している。
上位の3業種については全て地域外から稼いでいる産業である。

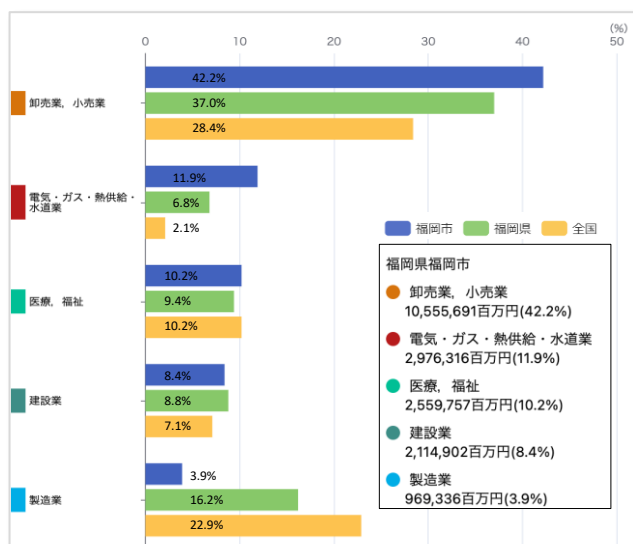


全産業の構造

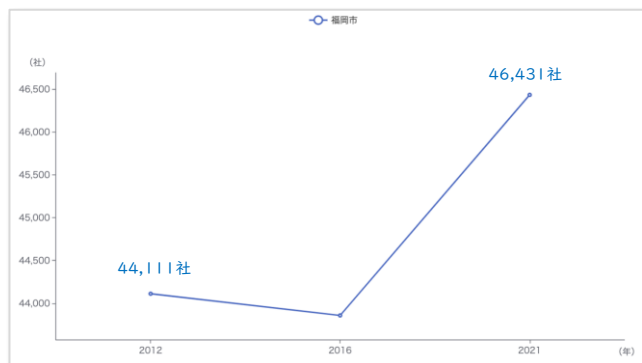
産業構成割合 売上高 (2021年)

福岡市内と全国、福岡県の業種ごとの売上高(企業単位)を示したグラフである。

福岡市内でもっとも多いのは「卸売業、小売業」の10,555,691百万円で、全体の42.2%を占めている。その後「電気・ガス・熱供給・水道業」、「医療、福祉」が続く。



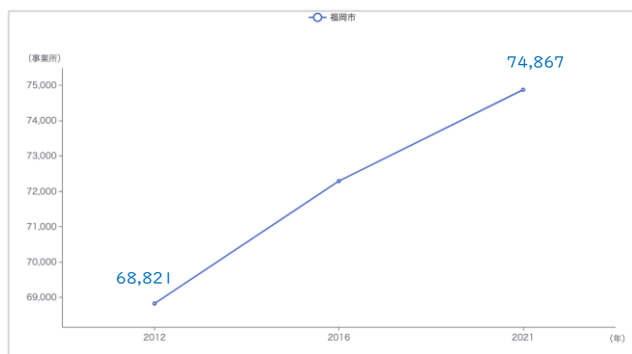
*産業構造マップ→全産業の構造→産業構成割合



*産業構造マップ→全産業の構造→推移(全産業)

企業数の推移

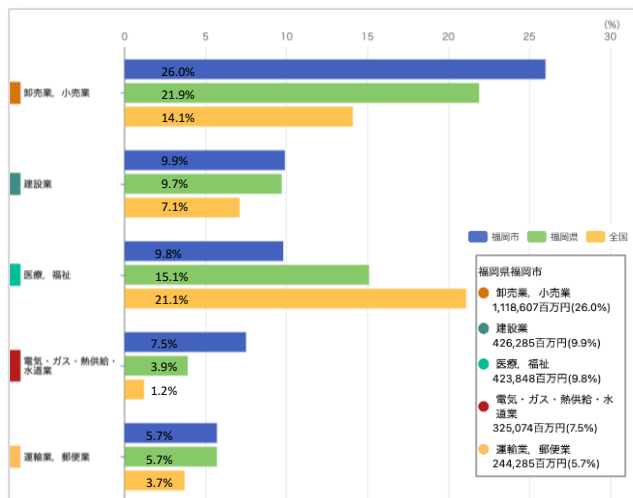
福岡市内の企業数の推移を示したグラフである。2021年の福岡市の企業数は46,431社。9年前の2012年の44,111社と比較すると5.3%増である。



*産業構造マップ→全産業の構造→推移(全産業)

事業所数の推移

福岡市内の事業所数の推移を示したグラフである。2021年は74,867事業所、9年前の2012年の68,821事業所と比較すると8.8%増である。



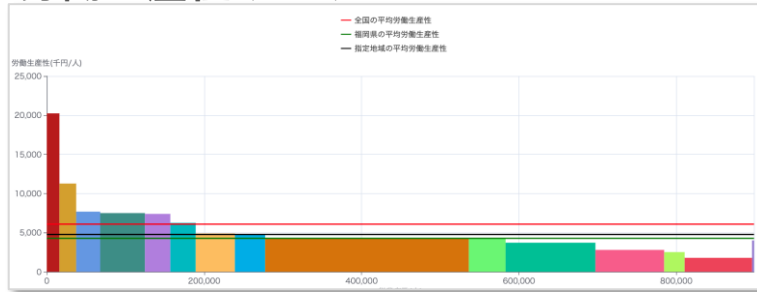
*産業構造マップ→全産業の構造→産業構成

産業構成割合 付加価値額 (2021年)

福岡市内と全国、福岡県の付加価値額の産業構成割合を示したグラフである。

福岡市内でもっとも多いのは「卸売業、小売業」の1,118,607百万円で、全体26.0%を占めている。その後「建設業」の426,285百万円の9.9%、「医療、福祉」の423,848百万円の9.8%が続く。

労働生産性 (2021年)



福岡市内の付加価値額を労働生産性と従業員から見たグラフである。

福岡市の1人あたりの平均労働生産性は4,795千円。

産業別にみると、「電気・ガス・熱供給・水道業」が一番高く、1人あたり20,241千円。「金融業、保険業」、「不動産業、物品賃貸業」が続く。

*産業構造マップ→全産業の構造→付加価値額の構造分析

産業	労働生産性 (千円/人)	従業者数 (人)	付加価値額 (百万円)
電気・ガス・熱供給・水道業	20,241	16,060	325,074
金融業、保険業	11,275	21,295	240,094
不動産業、物品賃貸業	7,686	30,546	234,790
建設業	7,501	56,828	426,285
学術研究、専門・技術サービス業	7,396	32,283	238,757
情報通信業	6,248	32,229	201,368
運輸業、郵便業	4,901	49,845	244,285
製造業	4,807	38,420	184,694
卸売業、小売業	4,322	258,846	1,118,607
教育、学習支援業	4,261	46,710	199,026
医療、福祉	3,714	114,111	423,848
サービス業（他に分類されないもの）	2,794	87,347	244,033
生活関連サービス業、娯楽業	2,515	26,070	65,573
宿泊業、飲食サービス業	1,784	85,665	152,796
その他	4,007	2,410	9,657

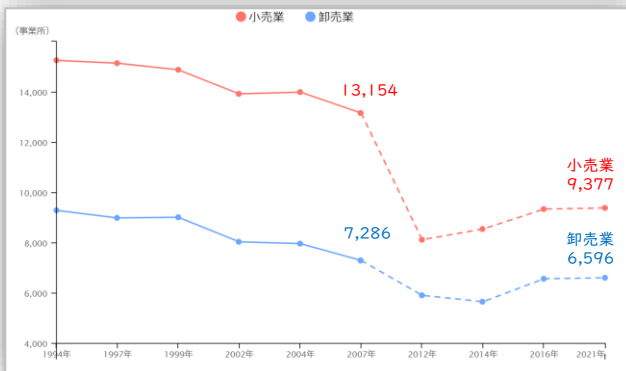
小売・卸売業

事業所数(小売業・卸売業別)の推移

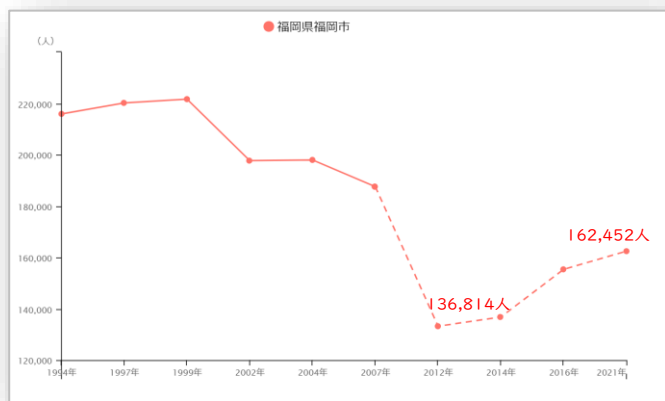
福岡市内の小売業・卸売業の事業所数の推移をそれぞれ示したグラフである。

2021年の事業所数は小売業9,377事業所、卸売業6,596事業所。14年前の2007年と比較すると小売業は28.7%減、卸売業は9.5%減となっている。

*グラフ上の破線は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「産業統計調査」と「経済センサス活動調査」の集計対象範囲の違い等から、単純に調査年間の比較が行えないことを示している。



*産業構造マップ→小売・卸売業→商業の構造



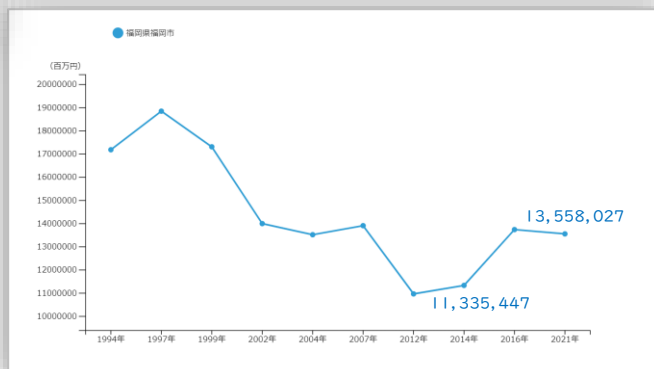
*産業構造マップ→小売・卸売業→商業の比較

従業者数の推移

福岡市内の小売業・卸売業の従業者数の推移を示したグラフである。

2021年の福岡市の従業者数は162,452人。7年前の2014年と比較すると18.7%増である。

*「商業統計調査」該当年において、従業者数は「有給役員」「常用雇用者（正社員・正職員・パート・アルバイトなど）」「個人業主」「無給家族従業者」の合計。



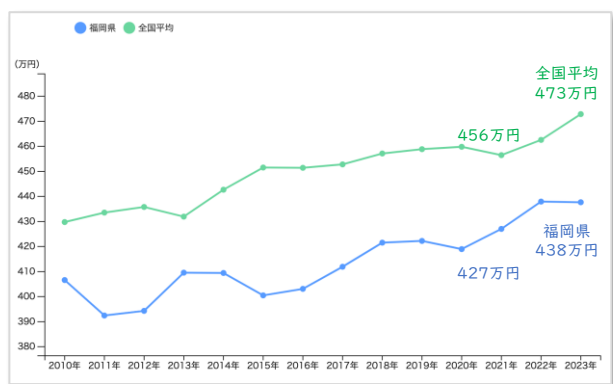
*産業構造マップ→小売・卸売業→年間商品販売額

年間商品販売額の推移

福岡市内の小売業・卸売業の年間商品販売額の推移を示したグラフである。

2021年の福岡市の販売額は135,580億円。7年前の2014年と比較すると19.6%増である。

雇用



*産業構造マップ→雇用→一人当たり賃金

一人当たり賃金（2023年）

福岡県の一人当たりの賃金を全国平均と比較したグラフである。2023年の福岡県は438万円であり、全国平均の473万円と比べて低い。

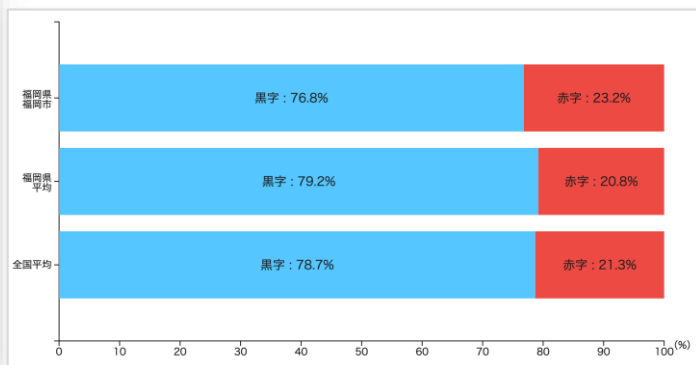
2021年の福岡県は427万円、全国平均は456万円である。

一人当たり賃金の全国順位は16位である。

創業・企業活動



*企業活動マップ→企業情報→創業比率



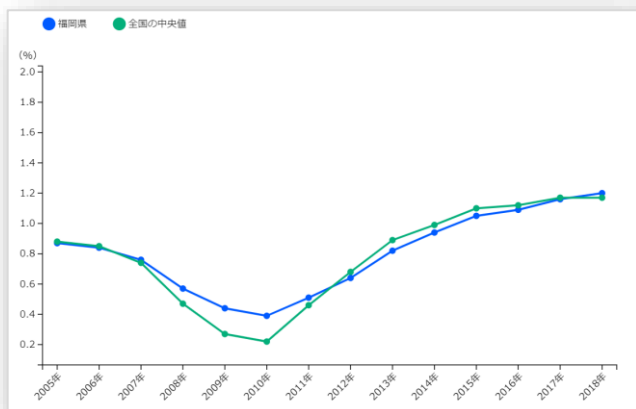
*企業活動マップ→企業情報→黒字赤字企業比率

創業比率の推移

福岡市内の創業比率推移を見ると、2014～2016年の創業比率は7.4%。2012～2014年と比べると、2.8%減である。全国平均の5.0%、福岡県平均の5.9%を上回っており、全国順位は76位である。

黒字赤字企業比率（2021年）

福岡市内の企業の黒字赤字企業比率を示したグラフである。福岡市の黒字企業比率は76.8%で、福岡県の平均79.2%、全国平均の78.7%より低い。福岡市の黒字企業比率全国順位は1,292位である。



*企業活動マップ→企業情報→中小・小規模企業財務比較

中小・小規模企業財務比較

福岡県の企業の営業利益率を示したグラフである。福岡県の水準と全国の中央値の水準を比較すると、同水準であることがわかる。

0～5%の水準であるため、一般的な水準となっている。

キャッシュレス

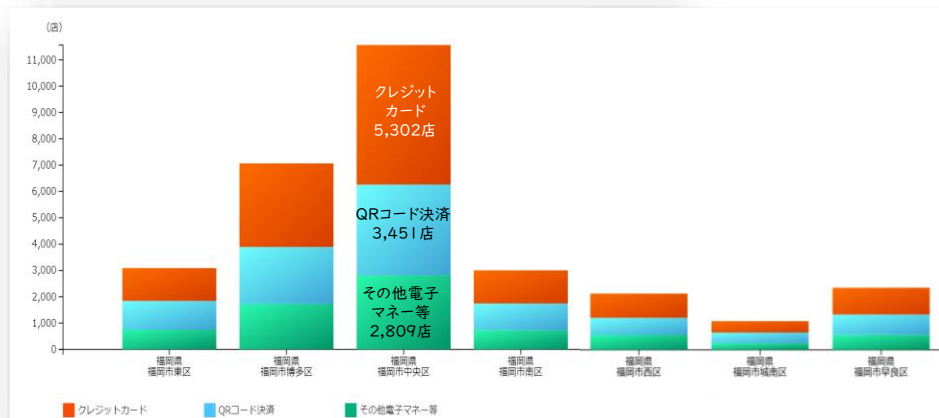
キャッシュレス加盟店数

(2020年6月)

キャッシュレス加盟店数を手段別に積み上げたグラフである。

福岡市全体をみると、中央区がもっとも加盟店数が多く、博多区、東区、南区が続く。

中央区での区分シェアをみると、クレジットカード決済が5,302店ともっとも多く全体の46%を占めており、QRコード決済は3,451店で30%、その他電子マネー等は2,809店で24%となっている。



*消費マップ→キャッシュレス加盟店数(ポイント還元事業)

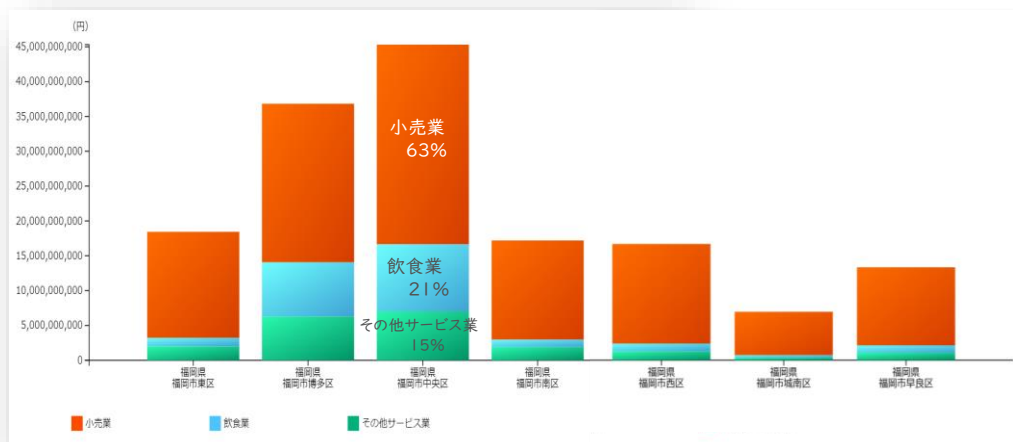
キャッシュレス決済データ

(2019年10月～2020年6月)

キャッシュレス決済金額を業種大分類別区分に積み上げたグラフである。

福岡市全体をしてみると、決済金額総額では中央区がもっとも多く、博多区、東区の順となっている。

中央区での分類別シェアをみると、「小売業」が63%ともっとも多く、続いて「飲食業」が21%、「その他サービス業」は15%となっている。

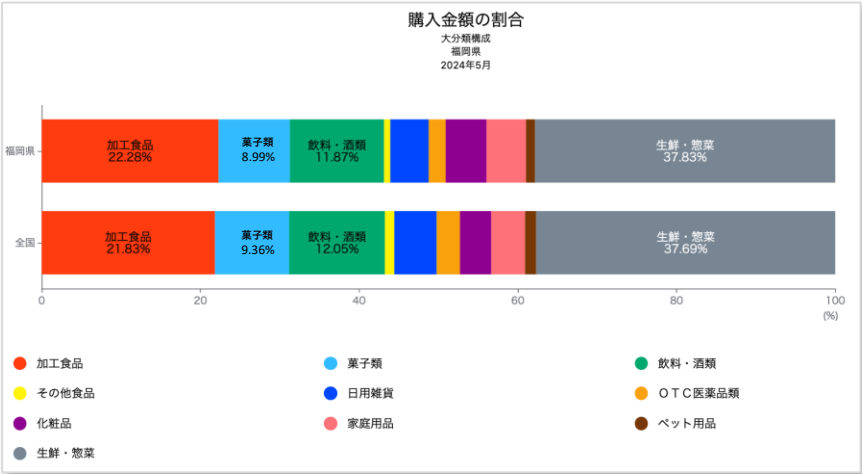


*消費マップ→キャッシュレス決済データ(ポイント還元事業)

消費の傾向（POSデータ）

購入金額（地域別の割合） （2024年5月）

福岡県の購入金額（地域別商品割合）を示したグラフである。福岡県全体を見ると、生鮮・惣菜が37.83%と最も多い。
全国平均と比較すると、0.14%高い。

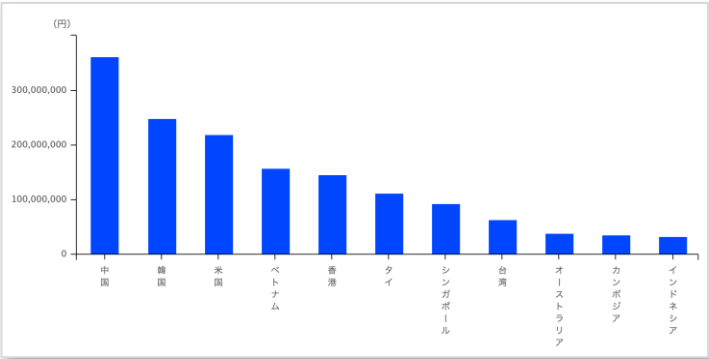


＊消費マップ→消費の傾向（POSデータ）→構成分析

外国人消費

外国人消費の比較（クレジットカード） （2022年9月）

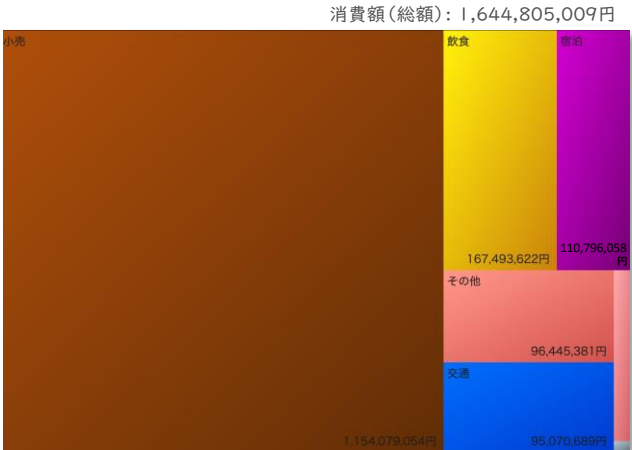
福岡県の外国人がクレジットカードで決済を行なった消費額を示したグラフである。
福岡県では中国が361,793,730円と最も多く、韓国249,019,538円、米国218,967,452円が続く。



＊消費マップ→外国人消費の比較（クレジットカード）

外国人消費の構造（クレジットカード） （2022年9月）

福岡県の外国人クレジットカードでの部門別消費構造を面で示したグラフである。
「小売」が一番多く、「飲食」、「宿泊」が続く。



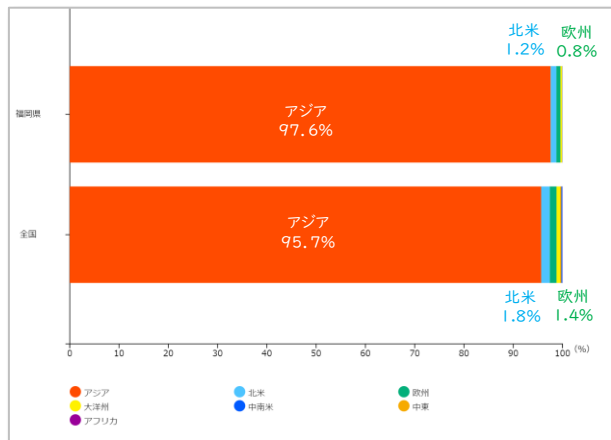
＊消費マップ→外国人消費の構造（クレジットカード）

外国人消費の比較（免税取引）

（2018年8月～2019年7月）

福岡県の地域・国別取引額の構成割合を示したグラフである。

福岡県ではアジアが97.6%と最も多く、全国の95.7%を上回っている。北米が1.2%、欧州が0.8%と続き、北米、欧州は全国をやや下回っている。

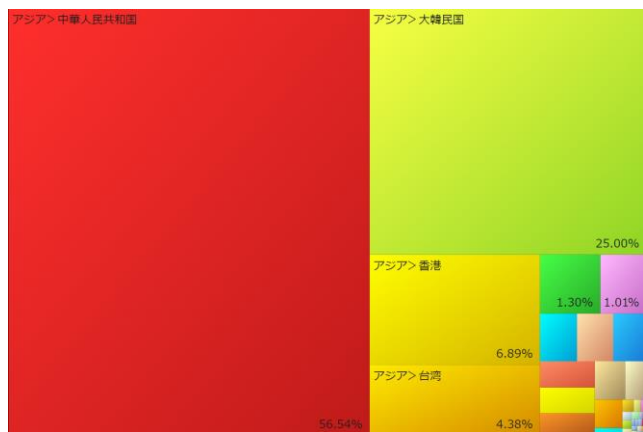


＊消費マップ→外国人消費の比較（免税取引）

外国人消費の構造（免税取引）

（2018年8月～2019年7月）

福岡県の外国人消費の構造を面で示したグラフである。国別・地域別では中華人民共和国が56.5%と最も多い。その後大韓民国の25.0%、香港6.9%となっている。



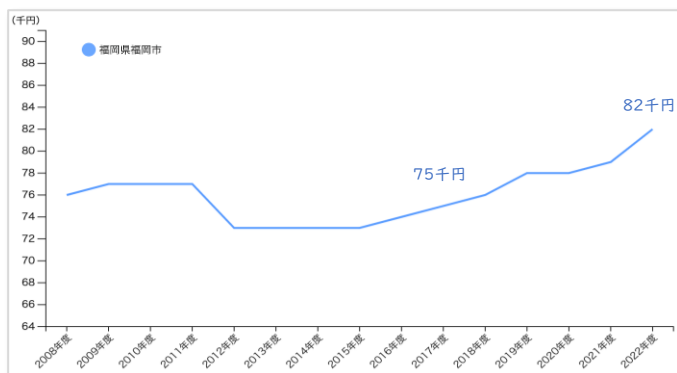
＊消費マップ→外国人消費の構造（免税取引）

地方財政

一人当たり固定資産税（2022年）

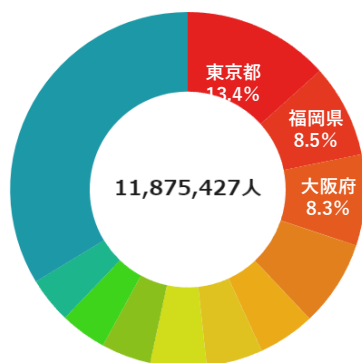
福岡市の一人当たりの固定資産税を示したグラフである。

5年前の2017年度（75千円）と比較すると、1.09%と増加している。

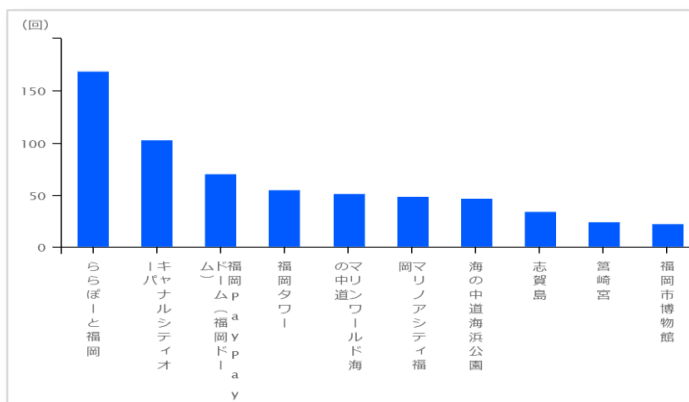


＊地方財政マップ→一人当たり固定資産税

観光



＊観光マップ→From-to分析（宿泊者）



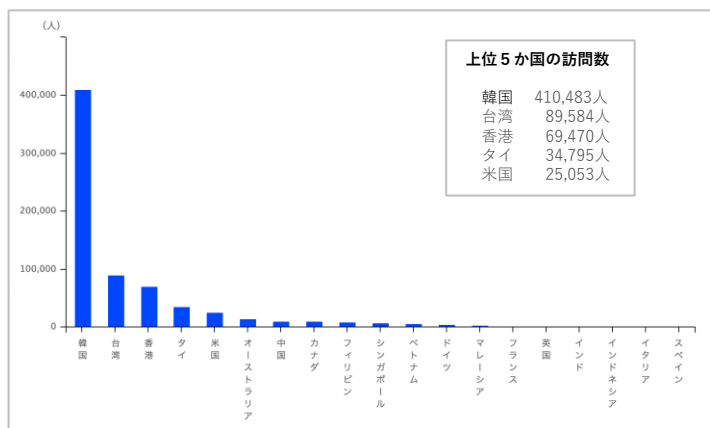
＊観光マップ→目的地分析

From-to分析（宿泊者）（2022年）

福岡市への居住都道府県別延べ宿泊者数（日本人）の構成割合を示したグラフである。東京都が13.4%と最も多く、福岡県8.5%、大阪府8.3%が続く。

目的地検索ランキング（2023年3月 休日）

福岡市内でカーナビで経路検索された回数が多い場所をランキング形式で示したグラフである。「ららぽーと福岡」「キャナルシティオーパ」「福岡PayPayドーム」の検索回数が多い。



*観光マップ→外国人訪問分析→国・地域別訪問者数

外国人訪問分析

(2023年4-6月)

福岡県の外国人の国別訪問者数をグラフにした図である。

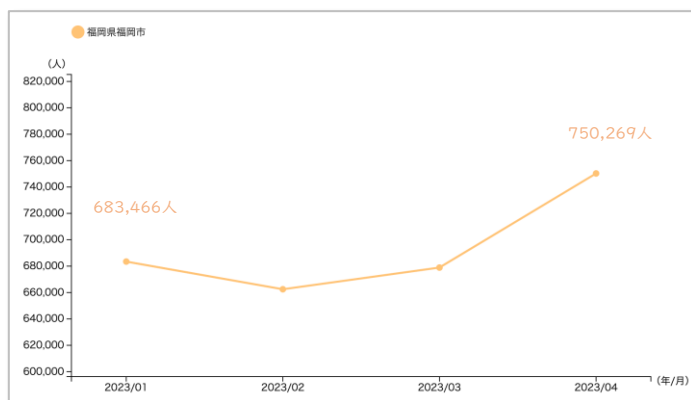
韓国が一番多く、410,483人、台湾89,584人、香港69,470人が続く。

外国人滞在分析

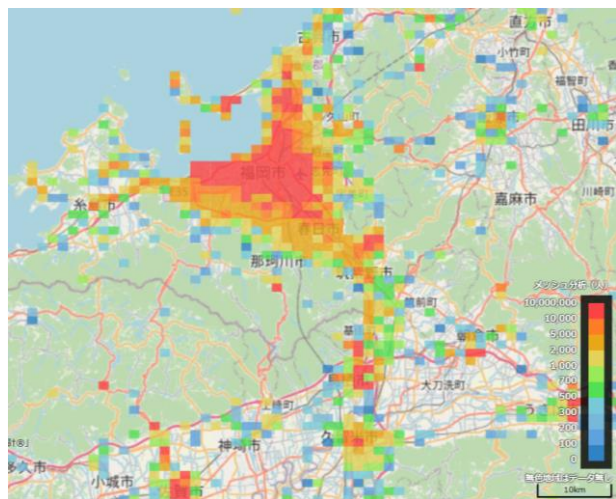
(2023年1-4月、昼間10-18時)

福岡市における外国人滞在者数を推移にしたグラフである。

2023年4月は750,269人と同年1月683,466人と比較し9.8%増加している。



*観光マップ→外国人滞在分析→地域別滞在者数の推移



*観光マップ→外国人メッシュ

外国人メッシュ

(2017年8月-2018年7月)

福岡市の外国人メッシュを表示させた図である。

各地点の外国人訪問客のうち、1時間以上そのメッシュの範囲に滞在した人数を表示している。

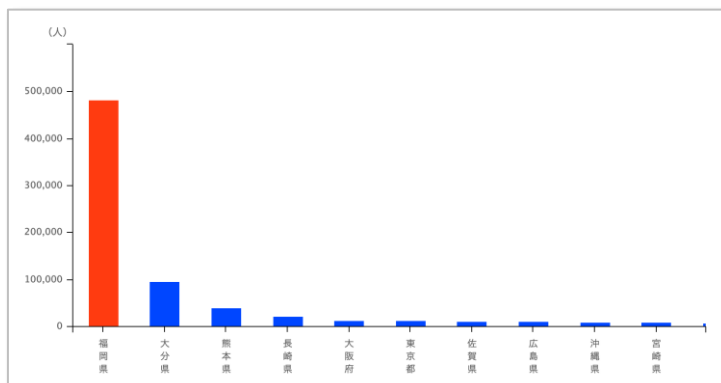
福岡市は10,000人以上を超えているエリアが多く、中心街では3,000,000人を超えるエリアもある。

外国人入出国空港分析

(2022年、福岡空港)

外国人が福岡空港から入国し、どの都道府県に訪問したかを表した図である。

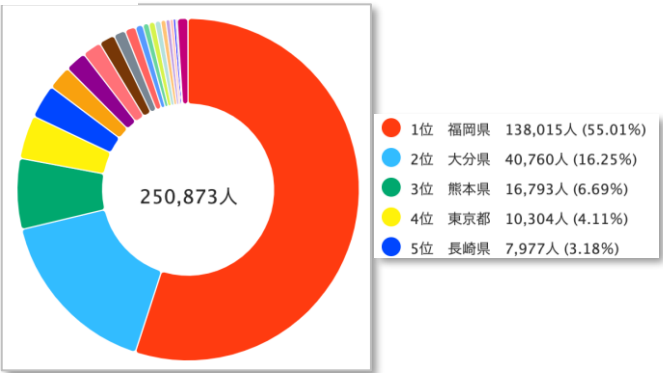
福岡県の他に、大分県、熊本県、長崎県と九州の北部に位置する県が上位に入る。



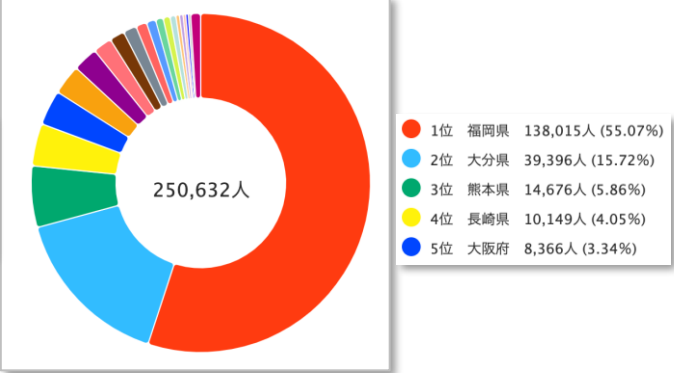
*観光マップ→外国人入国空港分析

外国人移動相関分析 (2022年)

福岡県の滞在直前に滞在した地域



福岡県の滞在直後に滞在した地域



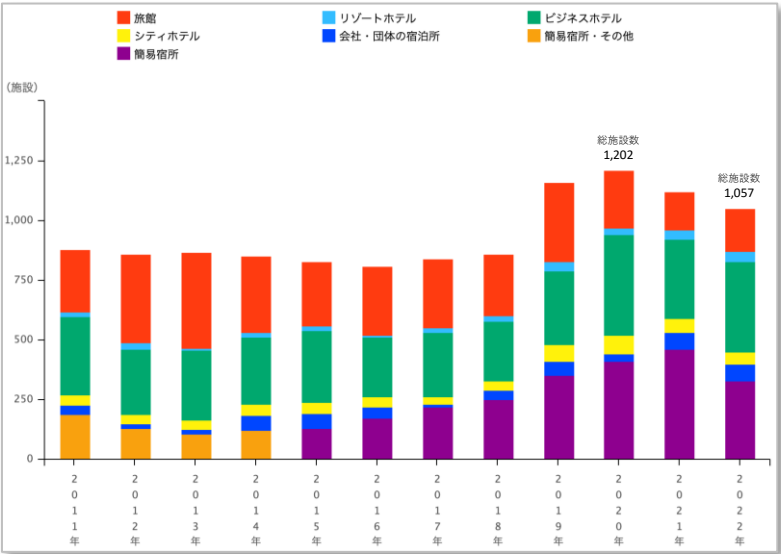
＊観光マップ→外国人移動相関分析

外国人が福岡県に滞在する直前、直後に訪れていた地域を示した図である。
1～3位までそれぞれ「福岡県」、「大分県」、「熊本県」が占める。
4位は滞在直前が「東京都」、直後が「長崎県」となっており、5位は滞在直前が「長崎県」、直後が「大阪府」と異なっている。

宿泊施設

施設数の推移 (2022年) (宿泊施設タイプ別)

福岡県の宿泊施設をタイプ別に積み上げたグラフである。
簡易宿所は右肩上がりであったが、2022年は減少している。
宿泊施設の合計数は2020年が1,202施設と一番多い。



＊観光マップ→宿泊施設→施設数の推移 (宿泊施設タイプ別)

発行: 福岡商工会議所
〒812-8505 福岡市博多区博多駅前2-9-28
TEL: 092-441-1146 FAX: 092-482-1523
URL: <https://www.fukunet.or.jp>

